



血管腫外来から「血管腫・あざ外来」へ

このたび、当院形成外科では2020年6月中旬よりQスイッチ付アレキサンドライトレーザー「ALEX II®」を導入することとなりました。

このレーザーはメラニン性病変をターゲットとした波長を有しており、保険診療内では「**太田母斑**」「**異所性蒙古斑**」を新たに治療することが可能となります。赤いあざを治療する色素レーザー「Vbeam II®」、青いあざを治療するレーザー

「ALEX II®」が揃ったことにより、**保険診療適応のレーザー治療がすべて当院にて実施可能**となります。



異所性蒙古斑



普通の蒙古斑
(日本人のほぼ100%にあり
10歳ごろまでに自然消滅
→治療は不要)



異所性蒙古斑
(おしり以外のところにできる
自然消滅する可能性が低い
→レーザー治療が適当)

太田母斑



思春期以降の女子に
現れることが多いです



生後すぐの赤ちゃんに
あることもあります



白目の部分が青くなることも多いですが
こちらはレーザー治療ができません

- ・顔、特におでこ〜目のまわり〜頬〜上くちびるの、青〜茶色がかかったような点状のあざの集まりです。
- ・片側だけのことが多いですが、まれに両側にも出ます。
- ・思春期以降に出ることが多いですが、赤ちゃんに出ることもあります。
- ・自然消滅はしないので、レーザー治療がおすすめです。

血管腫だけでなく、【「あざ」の総合外来】となります

赤あざ(血管腫)、青あざ(太田母斑・異所性蒙古斑)のみならず、レーザーが効きにくい、もしくは保険診療ですることができない「黒あざ(色素性母斑)」「茶あざ(扁平母斑)」、または診断のつきにくいあざについても、手術を含めご相談に乗ることができます。今後とも、武蔵小杉病院「血管腫・あざ外来」をどうぞよろしくお願いいたします(西本)。

